

5月定例記者会見 会見録

5月10日(木)11:33～

質疑応答

■つくば市パブリックコメント手続実施予定案件について

記者

パブリックコメントについて、昨年178件ということですが、お一人で何件も意見を提出される方もおられます。限られた市民しか意見を提出していないという、この手続き自体が形骸化していると思います。実際に政策に活用していくために、意見を提出していただく人数を増やしていくなど、今後、有効に使っていくためにはどのようにお考えでしょうか。

市長

非常にいい御指摘であり、課題だと思っております。一人で何件もというのものがございまして、案件ごとに見てみると、それなりに人数も出ているのかなと考えております。パブリックコメントは手続きとして進めなければいけないと位置付けられておりますが、パブリックコメントほど正式なものでなくとも、例えば、中心市街地についてウェブでアンケートを募集したところ、通常よりはるかに多い御意見をいただきましたし、オープンハウスという形で意見を募集すると、多くの方がいらして御意見を伺えます。必要な手続きは進め、そこでいただいた建設的な御意見は反映させますが、市民の声を聞く手段をできるだけ幅広くアクセスポイントを持つことが大事であると思います。パブリックコメントは行政コストがかなりかかりますが、民主主義のプロセスにとっては必要なものですし、引き続き進めていこうと思いますので、広報等についても積極的に行っていきます。

■まちづくりアドバイザーについて

記者

本日来られる予定でした、まちづくりアドバイザーの大瀬良さんについて、昨日、来られないとの連絡をいただきましたが、この方は内閣官房の仕事をしながらアドバイザーをされるということでしょうか。

市長

この件について、急遽決まったことで、大変申し訳なく思っております。内閣官房の任期が5月末まで残っており、このような事態が起こってしまうことも前提でした。極めて優秀なスタッフであるということをご理解いただきたいと

思います。

記者

大手広告代理店に在籍しながら官房内閣へ出向しているということは、大手広告代理店に在籍しながらアドバイザーを務めるという理解でよろしいでしょうか。

市長

はい、そういうことです。

記者

非常に優秀な方なのでアドバイザーに就任されたのだと思いますが、毎月 30 万円もらうのですよね。それで最初に仕事に来られないというのは、能力があるから仕方ないことかもしれませんが、ちゃんと仕事をする気があるのかという、うがった見方もしてしまいますが。

市長

極めてやる気を持っておられます。今回は、御案内のとおり日中韓首脳会談で総理官邸の用務が入ったので、そちらを優先してもらいました。ご理解いただきたいと思います。

■つくばまちづくりシンポジウムの開催について

記者

つくばまちづくりシンポジウムについて、昨年度からまちづくりビジョンの策定を進めており、今年度本格化されると思いますが、現在の進捗と、クレオ跡地の利活用についての市の検討状況を教えてください。

市長

今回お示しするまちづくりビジョンは、非常にイメージを出したものとなっております。中心市街地がこういう街になったらいいね、こういう活動ができればいいねというものを見せるものでありまして、このエリアをこういったものにするというマスタープランではございません。今まで市民のみなさまからいただいた御意見や庁内での意見を踏まえ、山崎まちづくりアドバイザーと意見交換をする中で、中心市街地のコンセプトとしてどういうものが必要なのかを整理しているところです。それについてはおおよそ素案が出来てきており、そ

の素案をみなさまにお示しして、また御意見をいただき、それを受けて修正をしていきたいと思えます。そして、そのビジョンに基づき、中心市街地をどのようにしていくか、どのくらいの人口が望ましいのか、企業数はどうするのか、といった計画や目標を作っていきたいと思っております。一方で、喫緊の問題であるクレオや、他の物件については同時並行的に検討していきます。クレオ跡地については、これまでもお伝えしておりますが、所有者の筑波都市整備が後継の事業者を探しています。なかなか思うようには進んでないようですが、市としての関わり方についてあらゆる選択肢を詳細に検討しているところでございます。

記者

なかなか解決案をすぐに出すのは難しいかもしれませんが、今後どのようなスケジュールで進めていく予定でしょうか。

市長

我々としても空いている状態を長くはしたくないと思っております。一方で、入れば何でもよいというわけでもありません。地方都市においても同じような状況がありますが、市が建物を買い取ってテナントでうめても、なかなか人が集まらないという状況もございます。やはりどうコンセプトを作っていくか、できる限り中身の濃いものにしながら、行政の手続きとしては短い時間で進めていくという相矛盾することをしなければいけない状況でございます。決してのんびりしているわけではなく、これについては市内でも最も多く時間を割いて検討しております。そのような中で、いつ、何をどうようにということは現時点では申し上げることは控えたいと思えます。